

第 3 次磐田市総合計画 基本構想 素案

令和 8 年 3 月 17 日時点

磐田市

(市長写真)

ここには、市長挨拶文を記載します。

第1章 はじめに

1	総合計画とは	1
2	総合計画の役割	1
3	計画の構成と期間	2
4	社会の潮流の変化	3
5	計画策定における視点	6
6	総合計画とSDGsとの関係性	9

第2章 基本構想

1	まちの将来像	10
2	まちづくりの基本理念	12
3	将来人口の推計	13
4	土地利用の方針	15

第3章 前期基本計画

1	前期基本計画の概要と体系	
2	5つの安心プロジェクト（仮称）	
3	分野別計画	
(1)	分野別計画の見方	
(2)	分野別計画	
	分野1 産業・雇用	
	分野2 自治・共生・スポーツ・文化・観光	
	分野3 子育て・こども・若者・教育	
	分野4 福祉・健康	
	分野5 防災減災・消防・安全	
	分野6 都市基盤・環境	
	分野7 行政経営	

資料編

第1章 はじめに

1 総合計画とは

私たちのふるさとである磐田市をこんなまちにしたい！！

本市では、市民や地域、事業者の皆さんと「学びと対話」を重ねて共感を得ることで、新たな価値を共に創り上げていく「共創」によるまちづくりに取り組んでいます。

私たちは、未来の磐田市をどのようなまちにしたいのか、今どのようなことに取り組む必要があるのか、そして、自分には何ができるのか…。そのための「羅針盤」として、第3次磐田市総合計画（以下「本計画」という。）を策定します。

2 総合計画の役割

本計画は、まちづくりの目指すべき将来像や基本理念、それを実現するための施策の体系や取組などを示したもので、次のような役割を果たします。

1 まちづくりの指針

目指すべきまちの将来像や施策の体系等を明確に示すことで、今後の市政の方向性を指し示す「まちづくりの指針」としての役割を果たします。

市民一人ひとりが「磐田市がどこに向かっているのか」を理解し、共に歩むための道しるべとなります。

2 行政経営の指針

行政の運営を管理ではなく経営と考え、成果と評価に重点を置くとともに、計画の進行管理など、「行政経営の指針」としての役割を果たします。

限られた資源を最大限に活用し、持続可能な行政サービスを実現します。

3 最上位計画としての指針

市の最上位計画として、子育て、教育、福祉、環境など、さまざまな分野における個別計画を策定する際の「最上位計画としての指針」の役割を果たします。

すべての施策が同じ方向を向いて展開されるよう導きます。

4 共創の行動指針

多様な主体が、まちの未来や目指すべき価値観を共有した上で、新たな枠組みや価値を共に創り上げていく「共創の行動指針」としての役割を果たします。

市民、事業者、団体、行政がそれぞれの役割や期待を理解し、取るべき行動基準を明確にします。

3 計画の構成と期間

本計画の構成は、基本構想、基本計画、実施計画の3層構造とします。

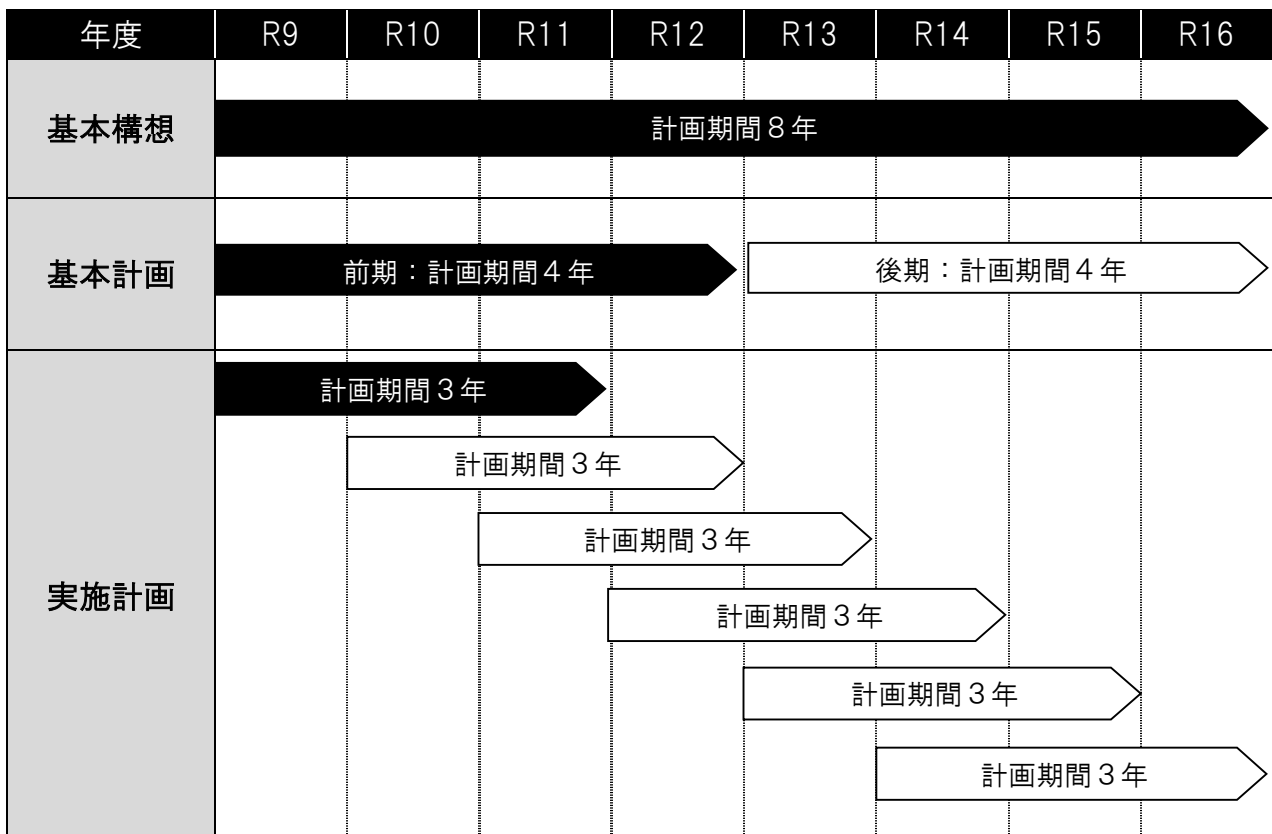
基本構想 (まちの将来像・基本理念)	目指すまちの将来像やその実現に向けたまちづくりの基本理念などを定めます。 ○計画期間：8年（令和9～16年度）
------------------------------	--

↓具体化

基本計画 (施策・取組)	基本構想を実現するため、分野別に現状や課題を分析し、体系的に具体的施策や取組を示したものです。計画は、4年ごとに前期・後期に分けて策定します。 ○計画期間：前期 4年（令和9～12年度） 後期 4年（令和13～16年度）
------------------------	--

↓具体化

実施計画 (実施方法・実施期間)	基本計画に定めた取組を実現するための計画で、施策の取組を具体的に示したものです。実効性と弾力性を確保するため、毎年度見直しを行います。 ○計画期間：3年（毎年度策定）
----------------------------	--




人口構造の変化と持続可能な地域社会の構築

<p style="text-align: center;">人口構造の変化への対応</p> <p>人口減少・少子高齢化で、労働力不足や社会保障費増加、空き家問題、地域経済の縮小など、多様な課題が顕在化。人口構造の変化に適応し、持続可能な地域社会を実現する自治体運営への転換が不可欠です。</p>	<p style="text-align: center;">地域コミュニティの再構築と共助の促進</p> <p>全国的に地域コミュニティの希薄化が課題となる中、全世代が孤立せず安心して自分らしく暮らせるよう、地域の実情に応じた共助の仕組みづくりと包摂的な社会の実現が重要となっています。</p>
<p style="text-align: center;">人生 100 年時代への適応</p> <p>医療技術の進歩と健康意識の高まりで人生 100 年時代が到来。高齢者の活躍促進、生涯学習や多様な働き方の支援など、誰もが能力を発揮し、いきいきと暮らせる環境づくりが重要となっています。</p>	<p style="text-align: center;">関係人口による多様なまちへの関わり</p> <p>2 地域居住やワーケーションなど、複数の地域を行き来する新しいライフスタイルが広がり、「住む」だけでなく多様なまちへの関わりが生まれています。関係人口を増やし、地域の活力向上につなげていくことが重要です。</p>


変化の激しい社会経済情勢への対応

<p style="text-align: center;">物価高騰への対応</p> <p>不安定な世界情勢や円安による物価高騰が市民生活と地域経済に大きく影響しつつも、実質賃金はプラスの兆しも見えています。長期デフレからの脱却を目指しながら、安定した生活と物価・賃金のバランスをどう保つかが課題となっています。</p>	<p style="text-align: center;">予測困難な未来社会への適応</p> <p>コロナ禍のように今後も予測困難な事態の発生が予想されます。コロナ禍を乗り越えた経験を生かし、不確実な状況下でも迅速かつ柔軟に対応できるレジリエンス（回復力・強靭性）の強化が必要となっています。</p>
<p style="text-align: center;">SDGs の取組み</p> <p>SDGs※は「誰一人取り残さない」持続可能な社会を目指す世界共通の行動目標。環境、社会、経済の調和を図り、自然豊かで持続可能な社会を将来世代に引き継ぐことが、私たちの重要な責務となっています。</p>	<p style="text-align: center;">世界で注目が高まる「ウェルビーイング」</p> <p>経済的成長だけでなく、人々の幸福や生活の質を重視する傾向の中、持続可能な社会実現のため、個人の幸福と社会の発展を両立させる新たな指標としてウェルビーイング（幸福感）が世界で注目されています。</p>

技術革新（DX・AI等）の進展と新たな可能性

<p style="text-align: center;">AXへの期待</p> <p>AI技術を核に据え、業務プロセスや組織文化、意思決定体系そのものを根本的に変革するAX※への注目度が高まっています。ビジネスや医療、行政など、あらゆる分野でAIが活用され、イノベーションが促進されることが期待されています。</p>	<p style="text-align: center;">DXによる暮らしの変化</p> <p>DX※の進展により、キャッシュレスによる支払いやオンライン手続き、リモートワークの普及など、暮らしが大幅に変化。デジタル化のメリットを全ての人に行き渡らせるために、誰一人取り残されないデジタル社会の実現が求められています。</p>
<p style="text-align: center;">新たな産業創出と人材育成への期待</p> <p>技術革新は新産業やビジネスモデルの創出を促進。イノベーションが創出される環境を整備し、企業の将来を担う人材育成に注力するなど、持続的な産業構造へと変革していくことが求められています。</p>	

深刻化する気候変動と環境問題への対応

<p style="text-align: center;">カーボンニュートラルとGX推進</p> <p>国が目指す2050年カーボンニュートラル達成に向け、温室効果ガス排出削減が急務。化石燃料からの脱却、再生可能エネルギー導入促進、市民・事業者と連携したライフスタイルの転換が求められています。</p>	<p style="text-align: center;">循環型社会の構築</p> <p>地球温暖化や資源枯渇の深刻化により、持続可能な社会システムの構築が急務。大量生産・大量消費型の経済モデルから脱却し、環境と経済の調和を図る新たな社会システムへの移行が求められています。</p>
<p style="text-align: center;">グリーンインフラの推進</p> <p>頻発・激甚化する自然災害に対応するため、防災・減災対策の強化が急務。グリーンインフラを推進することで、自然環境が本来持つ機能を活用したまちづくりに取り組むとともに、生物多様性を保全していくことが求められています。</p>	

持続可能なインフラ・公共施設の構築

<p>健全な都市基盤の維持</p> <p>道路、橋梁、上下水道管路などのインフラが私たちの生活に利便性をもたらし、その適切な保全と長寿命化は、市民の安心につながります。南海トラフ巨大地震への対応も見据えて、健全な都市基盤の維持が求められています。</p>	<p>公共施設の老朽化</p> <p>高度成長期に整備された公共施設の多くが老朽化。計画的な更新・改修に加え、施設の再編を進め、維持管理コストの最適化と持続可能な施設運営体制の構築が求められています。</p>
<p>時代にあわせた地域交通の構築</p> <p>少子高齢化と人口減により公共交通利用者が減少し、地域交通の将来について不安が広がっています。ライドシェア等を含めた新たな交通体系を構築し、時代にあわせた地域交通インフラの確保が求められています。</p>	<p style="text-align: center;">☒</p>

多様性を尊重する社会の実現

<p>外国人との共生</p> <p>外国人住民の増加に伴い、多言語での情報提供や相談体制の整備、教育・就労支援の強化が必要。外国人の自立と社会参加を促進し、相互理解と尊重に基づく安心して暮らせる地域社会の構築が求められています。</p>	<p>ダイバーシティ&インクルージョン</p> <p>性別、年齢、国籍、障がい、性的指向、性自認など、多様な背景を持つ人々が互いを尊重し、能力を発揮できる社会の実現が必要。誰もが自分らしく暮らし活躍できる包摂的な環境づくりが求められています。</p>
<p>こどもの権利の保障</p> <p>令和5年4月「こども基本法」が制定。全てのこどもが将来にわたって幸福な生活を送れる社会の実現を目指しています。こどもの意見表明権の保障や虐待防止、貧困対策など、こどもの権利を守る取組が求められています。</p>	<p style="text-align: center;">☒</p>

5 計画策定における視点

本計画は、以下の3つの視点を重視して策定しました。

- (1) ウェルビーイング（幸福感）の向上
- (2) 共創によるまちづくりの推進
- (3) バックカスティングによる未来志向

(1) ウェルビーイング（幸福感）の向上

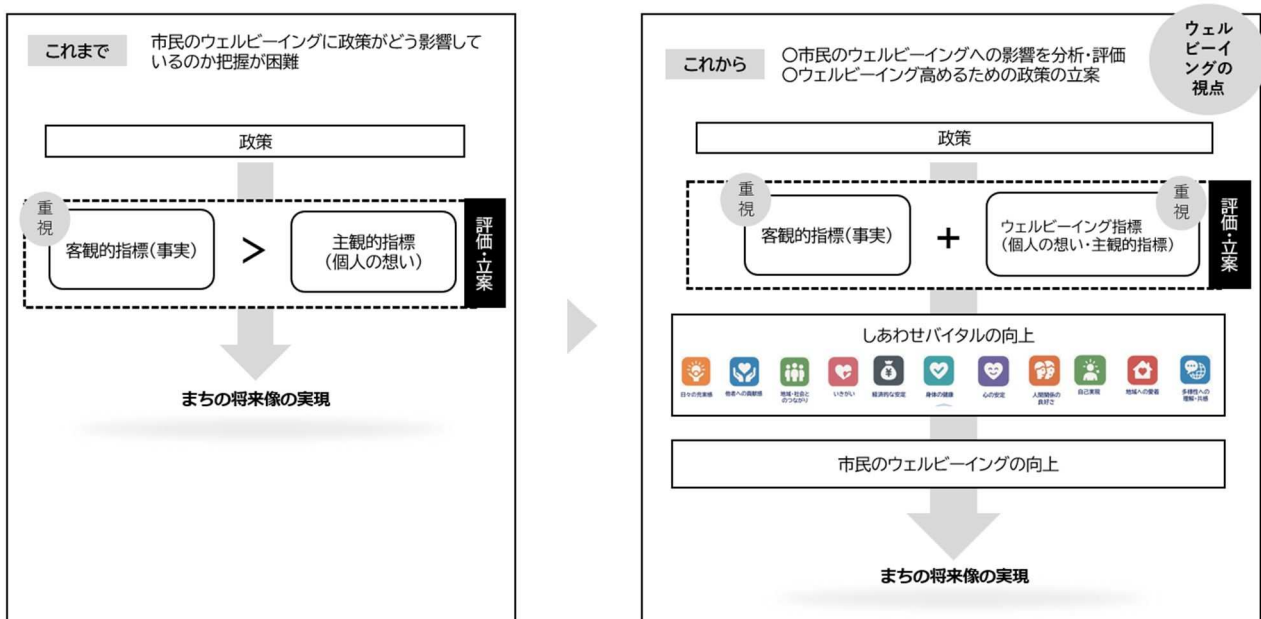
「ウェルビーイング」とは、「よい (well) + 状態 (being)」という言葉からなり、一時的なものではなく、持続的に身体的・精神的・社会的にも満たされた「良好な状態（幸せな状態）」であることを指します。

近年は、経済的な豊かさだけでなく、精神的充足や生活の質が重要視されており、本市ではウェルビーイングの向上が、地域コミュニティの活性化や健康寿命の延伸など、まちの発展や多様な社会課題の解決に不可欠な要素であると考えています。

そのため、まちづくりの基本的な考え方に、市民一人ひとりの「ウェルビーイング」の視点を取り入れていきます。

本市では、人によって様々ある幸せの要素を「しあわせバイタル」と名付け、その向上を通じて、市民のウェルビーイングを高めていきます。

これまで、政策の評価や事業の立案をする際には、主に客観的指標を重視してきましたが、今後は主観的指標である「ウェルビーイング指標」を取り入れ生かすことで、市民一人ひとりのウェルビーイングを重視したまちづくりを目指します。



しあわせバイタルとその内容

しあわせバイタル	内容
 日々の充実感	<p>明日への期待や達成したいことがあることで、毎日を前向きに生きるための活力が生まれている状態。</p> <p>質問 日々の中に楽しみや目標がありますか。</p>
 他者への貢献感	<p>自分の活動や働きが社会や周囲に対して価値を生み出しているという手応えを持つことができている状態。</p> <p>質問 誰かや何かの役に立っていると感じますか</p>
 地域・社会とのつながり	<p>周りの人々や地域社会の一員として受け入れられ、孤立することなく生活できていると感じている状態。</p> <p>質問 自分の暮らしが人や地域とのつながりの中にあると感じますか</p>
 いきがい	<p>人生において大切にしたいことや打ち込めるものがあり、心の充足感を得られている状態。</p> <p>質問 日々の生活の中に「いきがい」を感じていますか</p>
 経済的な安定	<p>日常の支出や将来への備えに対して、金銭面での不安を感じることなく暮らせていると感じている状態。</p> <p>質問 生活を送るために必要な収入が十分に得られていると感じますか</p>
 身体の健康	<p>心身の不調に悩まされることなく、やりたいことができる体力や身体機能を維持できていると感じている状態。</p> <p>質問 身体的な健康状態について、十分に健康であると感じていますか</p>
 心の安定	<p>悩みや心配事に圧迫されず、落ち着いた気持ちで日々を送ることができている状態。</p> <p>質問 精神的な安心を実感していますか</p>
 人間関係の良好さ	<p>家庭や職場、地域における対人関係がストレスとならず、互いに支え合える関係性がある状態。</p> <p>質問 周囲の人々との人間関係が良好であると感じていますか</p>
 自己実現	<p>自分の意思で人生の選択ができ、望む生き方や活動を追求できる環境と機会があると感じている状態。</p> <p>質問 自分のやりたいことを自由に実現できていると感じますか</p>
 地域への愛着	<p>磐田市で暮らすことに誇りと喜びを感じ、長く住み続けたいという気持ちを持っている状態。</p> <p>質問 今後も磐田市に住み続けたいと感じていますか</p>
 多様性への理解・共感	<p>異なる背景や考えを持つ人々との出会いを通じて、新たな視点を得られることに価値を見出せる状態。</p> <p>質問 自分とは違う考え方や価値観を持つ人との交流は、面白いと感じますか</p>

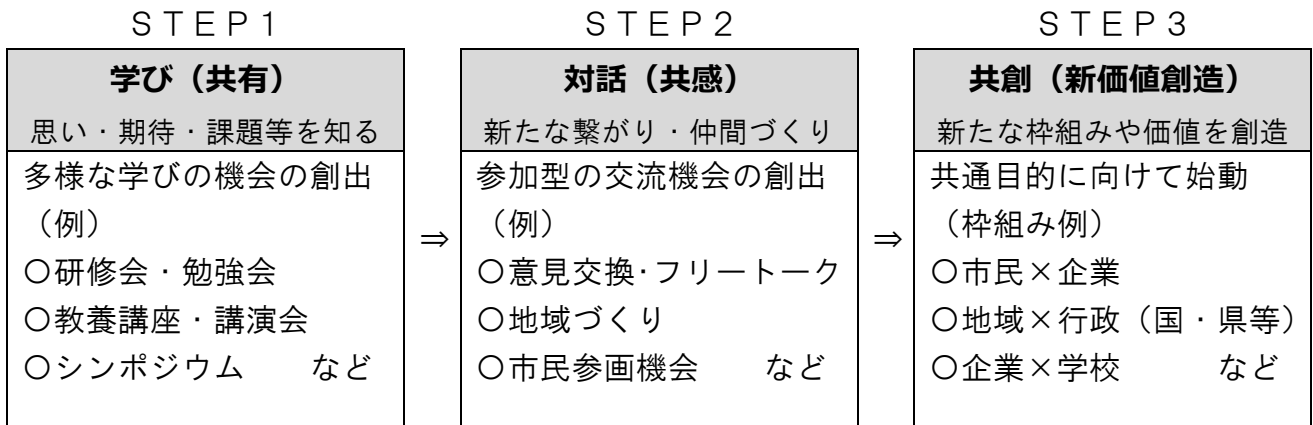
※質問は代表的な設問を記載

(2) 共創によるまちづくりの推進

「共創」とは、市民、自治会、事業者、学校、NPOなど、多様な主体が新たな枠組みをつくり、地域の課題解決や活性化に向けて、それぞれの持つ知識や技能、資源などを掛け合わせ、新たな価値を共に創っていくことです。

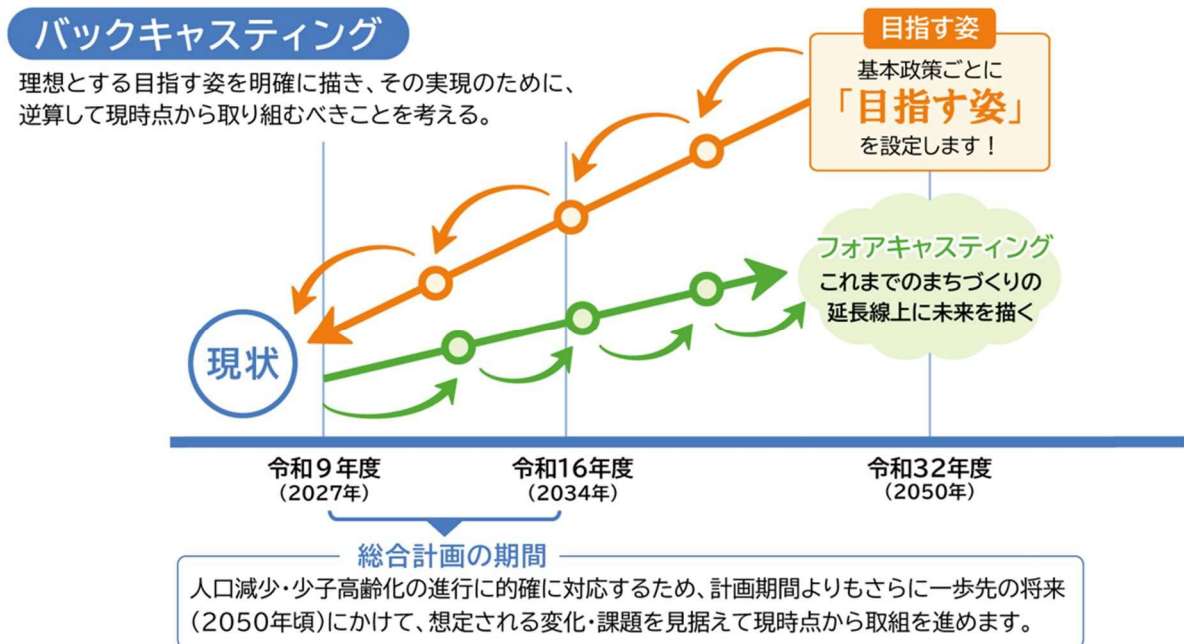
まちの将来像の実現に向けては、行政だけでは実施や解決が困難な課題も多く、また、持続可能なまちづくりには、多くの市政参画による当事者意識の高まりが重要となります。

この共創の基盤づくりである「学び（共有）」と「対話（共感）」の取組をさらに進めるとともに、本計画では共創の相手やその役割を明確にし、相互理解を深め、共創の取組が普及・定着するまちづくりを目指します。



(3) バックキャストイングによる未来志向

本計画では、総合計画の期間よりもさらに一步先の将来である 2050 年頃に想定される変化や課題も見据えながら、基本政策ごとに理想とする目指す姿を描き、その実現のために逆算して現時点から取り組むべきことを考える「バックキャストイング」の手法を中心に策定することで、未来志向のまちづくりを目指します。



6 総合計画とSDGsとの関係性

「SDGs※」（Sustainable Development Goals）の取組は、本市のまちづくりと密接に関連する部分が多く、総合計画を推進することは、SDGsの達成にもつながるものであることから、本計画とSDGsの関係性を示すとともに、市民や企業、団体等とのパートナーシップにより本計画の推進を図ることで、持続可能なまちづくりを目指します。

エス ディー ジー ス

SDGsとの関係性

2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です



SDGs 17の目標

<div style="margin-bottom: 10px;">  <p>目標 1 (貧困) あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>目標 2 (飢餓) 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>目標 3 (保健) あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>目標 4 (教育) すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>目標 5 (ジェンダー) ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>目標 6 (水・衛生) すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>目標 7 (エネルギー) すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>目標 8 (経済成長と雇用) 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する</p> </div>	<div style="margin-bottom: 10px;">  <p>目標 9 (インフラ、産業化、イノベーション) 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>目標 10 (不平等) 国内及び各国間の不平等を是正する</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>目標 11 (持続可能な都市) 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>目標 12 (持続可能な消費と生産) 持続可能な消費生産形態を確保する</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>目標 13 (気候変動) 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>目標 14 (海洋資源) 持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>目標 15 (陸上資源) 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>目標 16 (平和) 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>目標 17 (実施手段) 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する</p> </div>
---	--

SDGs：平成27年（2015年）9月の国連サミットで採択された、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を目指す世界共通の行動目標で、令和12年（2030年）を年限とする17のゴールと169のターゲットで構成されています。

第2章 基本構想

1 まちの将来像

(まちの将来像)

多様な魅力と幸福感があふれる都市 磐田 ～共創で世界とつながるまち～

本市は、脈々と受け継がれてきた歴史や文化、活力ある産業、豊かな自然、スポーツなど、多様な魅力があふれたまちです。そして、これらの魅力が、私たちの日々の暮らしに潤いと安らぎ、幸せを与えてくれています。

「まちの将来像」は、令和7年度に開催した『磐田の将来都市像を考える若者会議』での若者たちの想いをもとに、市民投票の結果を踏まえて定めたものです。

若者たちが描いた未来の実現に向けて、これらの魅力をさらに磨き上げ、未来の市民へ確実に引き継いでいくため、市民や事業者など本市に関わる全ての人との「共創」によって新たな価値を創造するとともに、国際的な視点を持ち世界に開かれたまちづくりを進めることで、さらなる成長と発展を目指します。

【写真】令和7年度に実施した「磐田の将来都市像を考える若者会議」の様子



「まちの将来像」に込められた想い

「多様な魅力」について

本市には、遠州灘や天竜川をはじめとする豊かな自然、遠江国分寺跡や旧見付学校などの歴史・文化遺産、ジュビロ磐田や静岡ブルーレヴズに代表されるスポーツ、そして輸送用機器や先端産業を中心とした活力ある産業基盤など、数多くの魅力が存在します。

これらは先人たちが守り育ててきた貴重な宝であり、これからも市民一人ひとりとその価値を再認識し、誇りを持ち、磨き上げ、新たな魅力を創造していくという想いが込められています。

「幸福感があふれる」について

本市が目指すまちづくりに欠かせない「ウェルビーイング」を高めることで、市民一人ひとりが幸せを実感するとともに、人とのつながりの中で幸せが伝播し、まち全体に幸福感があふれるまちを目指していくという想いが込められています。

「都市」について

本市は、県内第5位の人口規模を有し、製造品出荷額等では全国有数の産業都市としての側面を持つとともに、豊かな自然と調和した住環境を備えた、バランスのとれたまちです。

こうした本市の持つポテンシャルを最大限に発揮し、近隣市町や広域圏の中核として成長し続けるという想いが込められています。

「共創」について

人口減少や社会構造の変化、AI技術の急速な進展により、行政のみが主体となり公共サービスを担い地域を支える従来の都市運営は、大きな転換期を迎えています。

市民、自治会、事業者、教育機関、NPOなど多様な主体との「共創」こそがこれからのまちづくりの原動力です。一人ひとりが当事者意識を持ち、まちづくりに参画することで、持続可能なまちづくりを目指していくという想いが込められています。

「世界とつながる」について

本市は、輸送用機器をはじめとするグローバル企業の集積地であり、多くの外国人が暮らす多文化共生のまちでもあります。

国際的な視野を持ち、世界に開かれたまちとして発展していくという意味と、市民や地域、事業者などが「つながり」を深め、その輪を「世界」へ広げることでさらなる成長や発展を遂げ、世界を舞台に躍動できるまちづくりを目指していくという想いが込められています。

【参考資料】「若者会議」にて若者たちが考えた「磐田の未来（未来新聞）」と「まちの将来像」



(まちづくりの基本理念)

安心できるまち！共に創ろう魅力ある磐田

「まちづくりの基本理念」は、「まちの将来像」の実現に向け、今後のまちづくりを進めていくうえで特に大事にしていく基本的な考え方を示したものです。

安心できるまち

本市が目指す安心とは、誰も孤立せず、「居場所がある」、「役割がある」、「支え合える」、「誇りを持てる」など、自分らしく暮らし続けられる状態です。

急速に変化する現代社会では、様々な「不安」と「期待」が交錯していますが、第二次磐田市総合計画に引き続き、「5つの安心プロジェクト」を軸に、市民が感じている「不安」を「安心」に変えられるよう、「安心」を土台としたまちづくりを進めます。

共に創ろう魅力ある磐田

本市にある自然や歴史、文化、スポーツに加えて、人のぬくもりや地域とのつながりなど多彩な魅力（資本）は「まち全体」が対象であり、市民や地域、事業者など、本市に関わる全ての「ひと」「もの」「おかね」「情報」「文化」を魅力（資本）と捉えて、それらを掛け算して磨き、さらなる魅力（資本）を共に創り、挑戦し、未来へ伸ばしていくという考え方のもとまちづくりを進めます。

(まちづくりの基本理念の概念図)



3 将来人口の推計

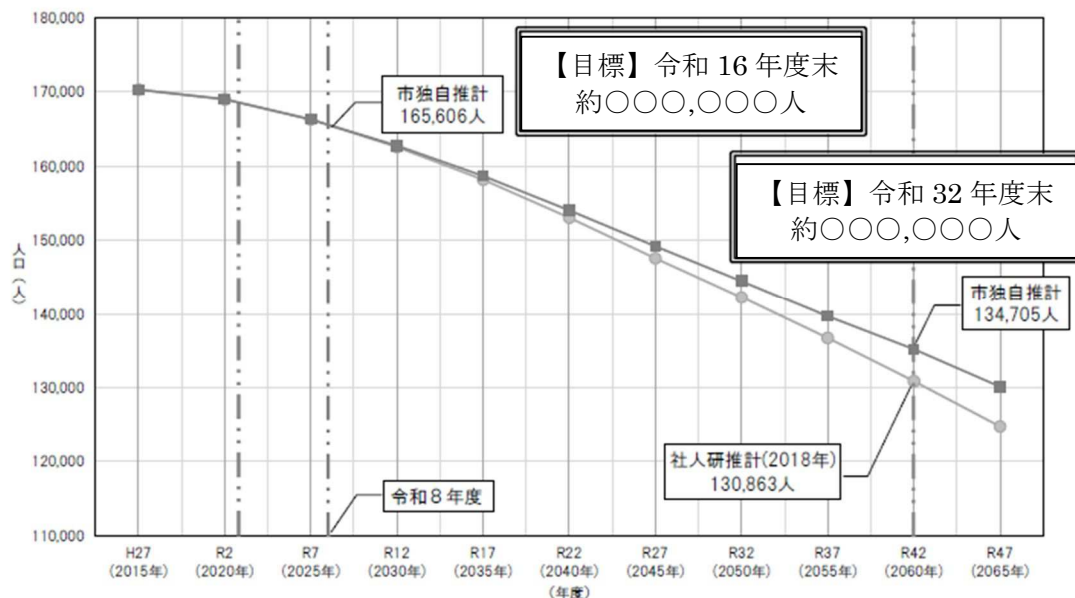
(1) 目標人口

本市の総人口は平成 20 年（2008 年）の 176,912 人をピークに減少に転じており、令和 8 年（2026 年）4 月 1 日現在の総人口は〇〇〇〇〇人となっています。国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）の推計によれば、現状のまま人口減少が進んだ場合、令和 17 年（2035）には〇〇〇〇〇人、令和 32 年（2050 年）には〇〇〇〇〇人になると推計されています。

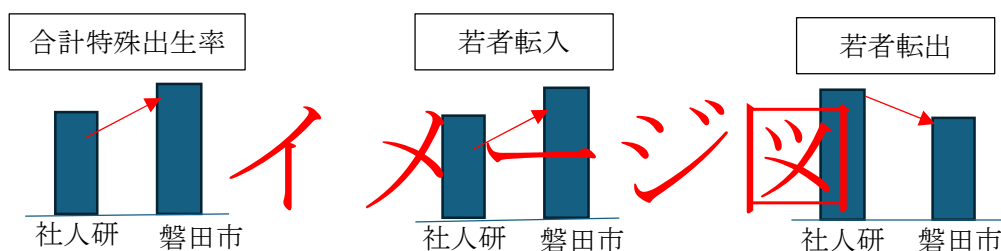
本計画では、住んでいる人が安心と幸せを実感できる施策を総合的に展開し、「住み続けたい」、「住んでみたい」と思われるまちづくりを推進することで、社人研の推計以上の人口を維持していくことを目指します。

ここには、「将来人口の推計のグラフ」等について記載します。

イメージ図



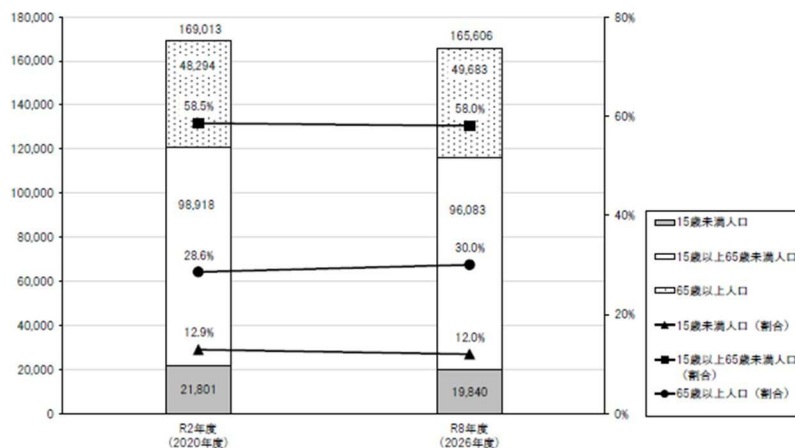
ここには、「社人研の推計条件との比較」について記載します。



(2) 年齢3区分別人口推計 (令和 16 年度まで)

「R7、R12 (前期終期)、R16 (後期終期) の推移」を掲載します。

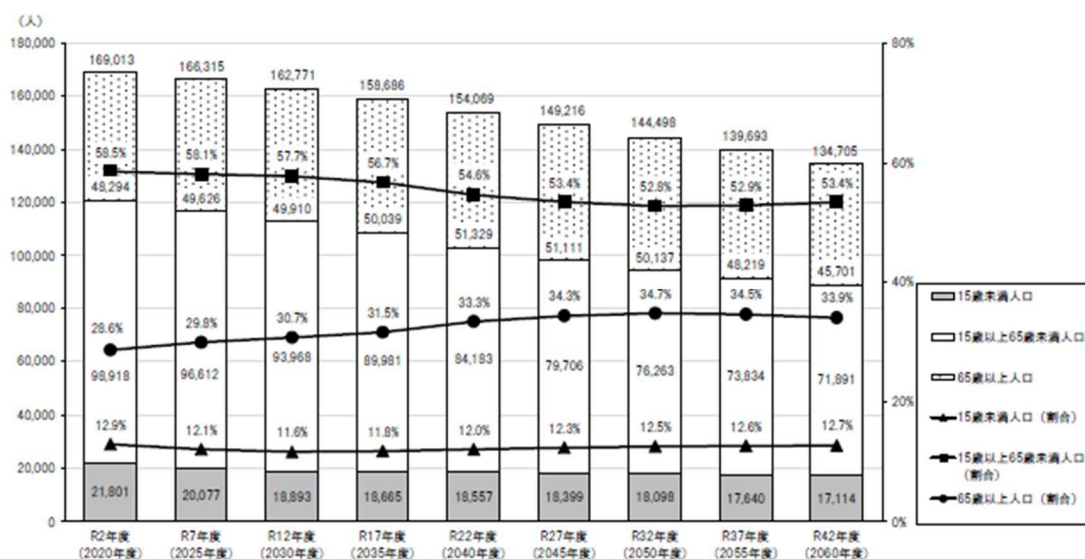
イメージ図



(2) 年齢3区分別人口推計 (令和 R37 (2055 年) 年度まで)

ここでは、「R7~R37 までの5年ごとの推移グラフ」を掲載します。

イメージ図



4 土地利用の方針

土地は、将来にわたる貴重な資源であり、市民の暮らしや生産など様々な活動を支える共通の基盤として、有効に活用し大切に次代へ引き継いでいく必要があります。

本市では、新東名磐田スマートインターチェンジやJR御厨駅の開業により広域的な交通利便性が向上し、新たな交流や産業の発展の可能性が広がるとともに、学府一体校の整備や文化会館の建設など、地域の拠点となる施設の充実も進んでいます。

一方で、人口減少・少子高齢化の進行、頻発・激甚化する自然災害、デジタル化や脱炭素社会への転換など、複雑化・多様化する課題への対応が求められています。

こうした時代の変化に柔軟に対応しながら、本市の地域資源と都市基盤を活かし、コンパクトなまちづくりに向けて、次の基本的な考え方にに基づき、誰もが安心して暮らせ、また、多くの人の交流や産業活動の展開を促すなど、持続可能で発展につながるような土地利用を目指します。

なお、具体的な土地利用の指針や構想図などは、都市計画マスタープランなどにより示すことにします。

(1) 基本的な考え方

①持続的な発展を目指す土地利用

都市の活力を維持・増進するため、本市の個性や特性を活かした都市機能や働く場の誘導を進め、産業の振興と賑わいの創出を図るとともに、便利で快適な居住環境を形成するなど、当該地域の発展につながるような土地利用を進めます。

さらに、都市の拠点となるJR3駅周辺は、文化・歴史・商業・スポーツ等をコンテンツとし、既存ストックを活用しながら、活発な産業交流や地域交流が生まれる土地利用を進めます。

②周辺環境と調和した土地利用

既存集落やコミュニティの拠点である交流センター、学校、観光資源等の周辺は、農地や緑地等の保全、良好な景観形成や災害リスクの低減に配慮しつつ、地域特性に応じた住居環境の形成や、産業や交流・レクリエーションの機能強化を図るなど、地域の活性化や産業振興につながる土地利用を進めます。

③自然環境に配慮した土地利用

豊かな自然環境は、市民共有の財産であり、これまで守り受け継いできた環境を保全し、次世代へと継承していく必要があります。

農地は、集積や集約化などまとまりのある優良農地の維持・確保を図ることで、農業の維持・発展に努めていきます。

また、緑地や水辺などの自然環境が持つ多様な機能を活かした防災・減災対策の推進、生物多様性の保全や良好な景観形成、観光・レクリエーションの拠点化や再生可能エネルギーの活用による環境負荷の低減など、人と自然が共生する土地利用を進めます。